

命を守る仕事

栃木県立栃木工業高等学校 電気科 3年

金小路 龍輝

私は将来、電気技術者として電気機器の事故を防ぐ仕事に全力を注いでいきたいと思います。最終的には、電気技術者の中でも特に電気管理の職に就きたいと思っています。私がお仕事に就きたいと思ったのは、祖父が電気管理事務所を営んでいたからです。小さい頃よく祖父の職場へ行き、仕事をする祖父の姿を見て、この仕事に興味を持ちました。それから、積極的に祖父の職場へとついていきました。家に帰ってからも、仕事の事について色々な話を聞きました。祖父は嬉しそうに仕事の楽しいところや電気工事で行った先のこと、色々な人との出会いなど、祖父の話はとても楽しいものばかりでした。そして、私はより一層、電気管理の仕事に就きたい、電気管理の仕事はすごい仕事だという思いを強めました。しかしその一方で、とても恐ろしい話もありました。今までに何人も人が電気工事中の事故で亡くなっているというのです。その話を聞いた時、私の中で電気管理の仕事へのイメージが一変しました。その話を当時初めて聞いた時には、電気管理の仕事に対する思いに楽しみな気持ちに加えて、その仕事に対する恐怖心も生まれてきました。それと同時に、それまで少し浮ついていた気持ちが引き締まっていきました。この出来事をきっかけに、電気機器による事故を少しでも減らすため、電気管理の仕事に就こうと思いました。私が電気管理の仕事に就いて、やろうとしていることは、先ほど述べたとおり少しでも電気機器の事故を防ぐ為、常に電気工事をする前の安全確認等をしっかりしていこうということです。以前、祖父から大型の変圧器の点検をしようとした際、電気の導通試験をしっかりとしなかったために感電し、亡くなってしまった方がいたことを聞きました。祖父はその事故を重く受け止め、二度とそのような事故を起こさないよう、点検前の安全確認は絶対に忘れないようにしていたそうです。また、祖父は自分の命だけでなく、他人の命も守るためにとても念入りに点検をし、この先祖の点検した機器が絶対に事故を起こさないようにと努めていました。そんな祖父でしたが、3年前にがんにより他界してしまいました。祖父は生前変圧器などの事故防止に取り組んでいたと聞きました。そのかいあって、スカイツリーなどの有名な建造物からも依頼が届いていました。それを祖父はいつも嬉しそうに話していました。そんな祖父に憧れて、私は工業高校に入り、電気の勉強をしました。祖父がいなくなってしまう今、私が祖父に聞いた事故の話をおぼれないよう、しっかりと肝に銘じ、事故により亡くなってしまう人をなくす事に全力を尽くした祖父のような電気技術者になりたいです。